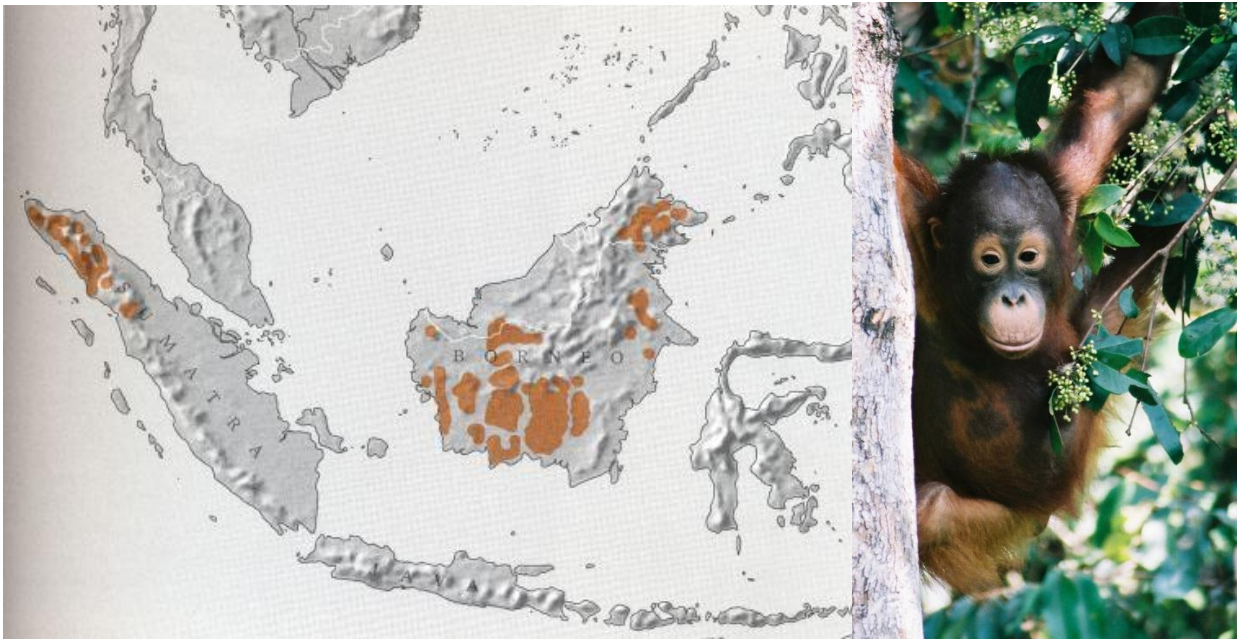


# オランウータン等絶滅危惧種

## の保全を - 過去 100 年で生息地 9 割消滅

(図：現在の生息地//写真：タンジュン・プテイン国立公園のオランウータン)

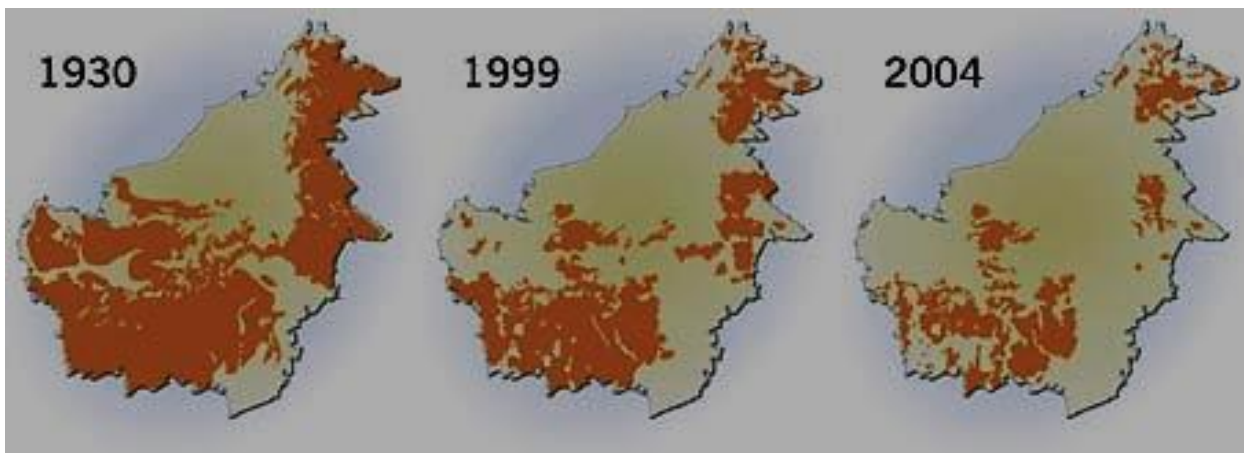


2007年2月、国連環境計画(UNEP)は、2032年までにボルネオやスマトラ島の低地熱帯林の98%が破壊される可能性がある。泥炭地やフタバガキ科の森で大半生息するオランウータンはさらに生息地がなくなり、危機的な状況であると報告した。当時のオランウータンの生息予想は、ボルネオとスマトラ合わせて約6万頭。緊急対策が必要と報告した。過去100年で生息地の9割が消失したといわれる。

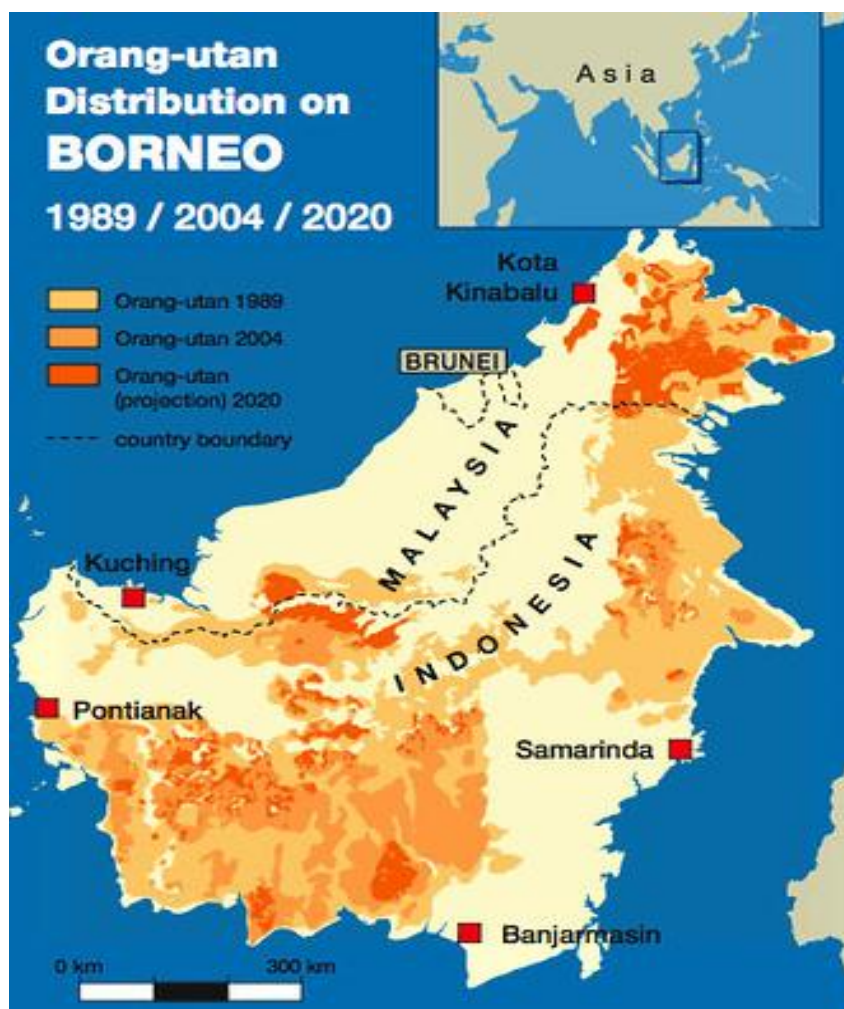
最近のOrangutan Conservancyの2013年の調査では、「以前6万頭と言われていたオランウータンの個体数は、ショックだが2012年には、ボルネオとスマトラ島で約4万頭しか生息していないだろう。」ひょっとすると3万頭弱の生息かもしれない。

As of 2012, the Orangutan Conservancy believes there are approximately only 40,000 orangutans remaining in Borneo and Sumatra. Shockingly, the number was about 60,000 as recent as a decade ago.

それは、サンジェゴ動物園の 2 万—27000 頭という 2013 年の予想頭数である。



オランウータン生息地の減少(1930—2004年)と下の図 2004—2020 年の生息地予想 (by WWF)



現在予想される  
 生息地  
 (サンジェゴ動物園予測)  
 個体数  
 (サンジェゴ動物園予測)  
 (km<sup>2</sup>)—

サバ&サラワク	Sabah and Sarawak (Malaysia)	3,000-5,000	197,605
カリマンタン	Kalimantan (Indonesia)	12,000-15,000	539,460
スマトラ	Sumatra (Indonesia)	5,000-7,000	473,606
計		20,000-27,000	1210,671

また、同団体は、野生のオランウータンはこの 25 年で激減した。人類の森への開発や火災等で、この 20 年間にオランウータンは生息地の 80%を失った。特に 1997－98 年の火災により、オランウータンの 1/3 の個体がなくなった。

21 世紀になってから、アブラヤシ開発のためブルドーザーで森を切り開き、土地をめくっている。2011－2012 年にかけて、数千 ha のアブラヤシ開発の拡大のために、オランウータンは生息にさらに圧力がかかっていると。

以前オランウータンは、マレーシア・サラワク州やサバ州、インドネシアのカリマンタンの至る所に生息地となっていたが、密猟、商業伐採による低地熱帯林の破壊で、生息地がなくなり、近年では国立公園、森林保護区やその周辺部分でしか生存していない。しかも国立公園や森林保護区でも違法伐採が繰り広げられていたりしたが、この違法伐採がインドネシアで急激に停止したが、木材企業はアブラヤシ開発のオーナーと転身して、アブラヤシ開発によるオランウータンの生存の危機となっている。



現在のオランウータンへの脅威は、**アブラヤシ開発、違法伐採を含む森林破壊、密猟、火災等**である。オランウータンの緊急な保護が必要だ。放置すれば地球上の野生のオランウータンは、全く見られないようになるだろうと、国連や Orangutan Conservancy や BOS(Borneo Orangutan Survival)等 NGOs は指摘している。

\* 密輸の例・台湾で 1980 年代後半に 1,000-2,000 頭、1990 年代に 3-4 年で 1,000 頭が密輸

## オランウータンの生態・生息地

大昔、オランウータンは少なくとも 1 万年前まではタイ、マレーシア半島、ベトナム、中国南部などのアジア大陸にも生息していた(\*1)。そこにオランウータンが生息していないのは、人間に大量に狩猟されたことが一因、と言われている。いくつかの遺跡では、オランウータンの歯が大量に出土しており(\*2)、当時の人間にとって、オランウータンも主要な狩猟対象だったと考えられる。

現在のオランウータンの多くは、低地の泥炭湿地から標高 1000m(スマトラ 1500 m)までの静かなフタバガキ科の森で生息し、移動は木から木を渡る。木の上に巣を造り、巣は 1-3 日後に大半を造り換え、移動を始める。彼らは、昼間は休んでまた午後遅く動き出す。夕方が近づくと、彼らは巣を準備し始める。移動は食べ物を求めるためや、異性との遭遇でもある。野生は非常に警戒心が強い。



orangutan の巣

## 食物とフタバガキ科や泥炭湿地の森

食物はドリアン、マンゴスチン、ランブータン、マンゴスチン等の果実を好み、フタバガキ科の樹木やジンチョウゲ科のラミンなどの果実・若芽を食す。森に好きな果実等がない時はイチジク、植物の芽、葉、樹皮などを食べる。時には昆虫、鳥類の卵なども食べるが、オランウータンは大半が植物を食べる。

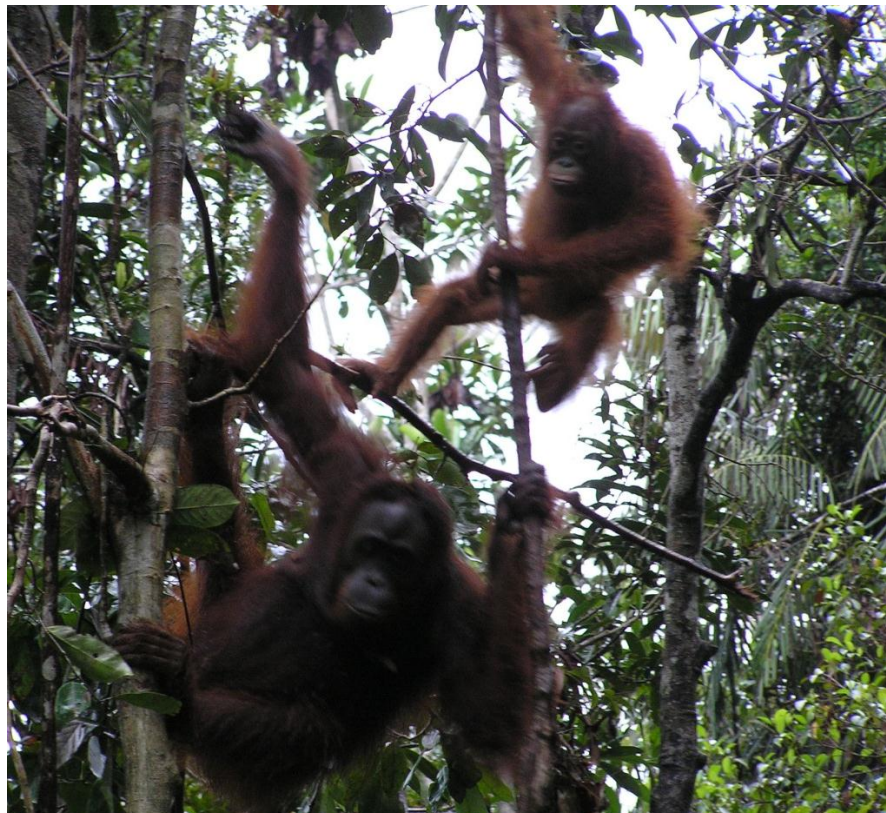
東南アジアの熱帯林ではフタバガキ科の一斉開花と呼ばれる現象があり、数年に1度だけ森の木々が一斉に開花し結実する。一斉開花の年以外は果実生産が低調で、イチジクやその他を食べるわけである。特にボルネオ島ではこの果実がない期間が長く、一斉開花の年に「食いだめ」をして体内脂肪を蓄え、果実が少ない時期はこの脂肪を消費しながら耐えている。「非果実」の時期に樹皮や新葉などを食べながら、ため込んだ脂肪を消費してしのいでいる。スマトラでは、ボルネオよりフタバガキ科の樹木が少なく、「非果実」時期が少ないため、樹皮や若芽を食する割合が少ないらしい。オランウータンを「完全な菜食主義者」とする記述もあるが、ボルネオでもスマトラでも、多くの個体が時々アリやシロアリなどの無脊椎動物を食べることが観察され、機会があれば(非常に稀ですが)肉食もする(\*1)。



## 移動・行動

メスよりもオスの方の行動圏が大きい。最低1日あたり100-300m(\*1)、(\*3)を移動する。平均500m(\*1)の移動で、オランウータンは平均1日につき90m—約3Kmの間で移動(\*4)する。移動距離は、生活域圏サイズに正比例している。食物を上手く探すルートをとることから季節、食樹の位置を把握していると考えられ、他の動物の動きで食物の位置を察知することもあり、移動をする。

一般的には単独で生活するが、採食の際に1つの樹木に複数が集まることもあり、若い赤ちゃんオランウータンや若いオランウータンは集団で遊んだり、ペアで行動することも多い。子連れの母親の後をつけることもある。夜には毎晩、1頭1頭が新しい巣を作って寝るが、まれに古い巣を再利用することがある。赤ちゃんや若いオランウータンは、母親から独立するまでは母親と一緒にの巣で眠ることが多い。



木と木の間を移動する



## 出産・寿命

妊娠期間は260-270日(\*3)。出産間隔は通常6年で(\*1)、短くても3年(\*3)、授乳期間は3年と言われる(\*3)。赤ちゃんオランウータンは母親と4-5年は一緒に生活するが、生後3-7年で母親から離れて行動し始めるようになり、生後5-10年で思春期を迎え、母親が次の赤ちゃんを産むことがきっかけで独立することが多いと言われる。赤ちゃんの出産は1頭であり、死産の割合が低いらしい。オランウータンの寿命は、まだ分かっていないが、長寿で58歳までらしい(\*1)。

## オスどうしの関係

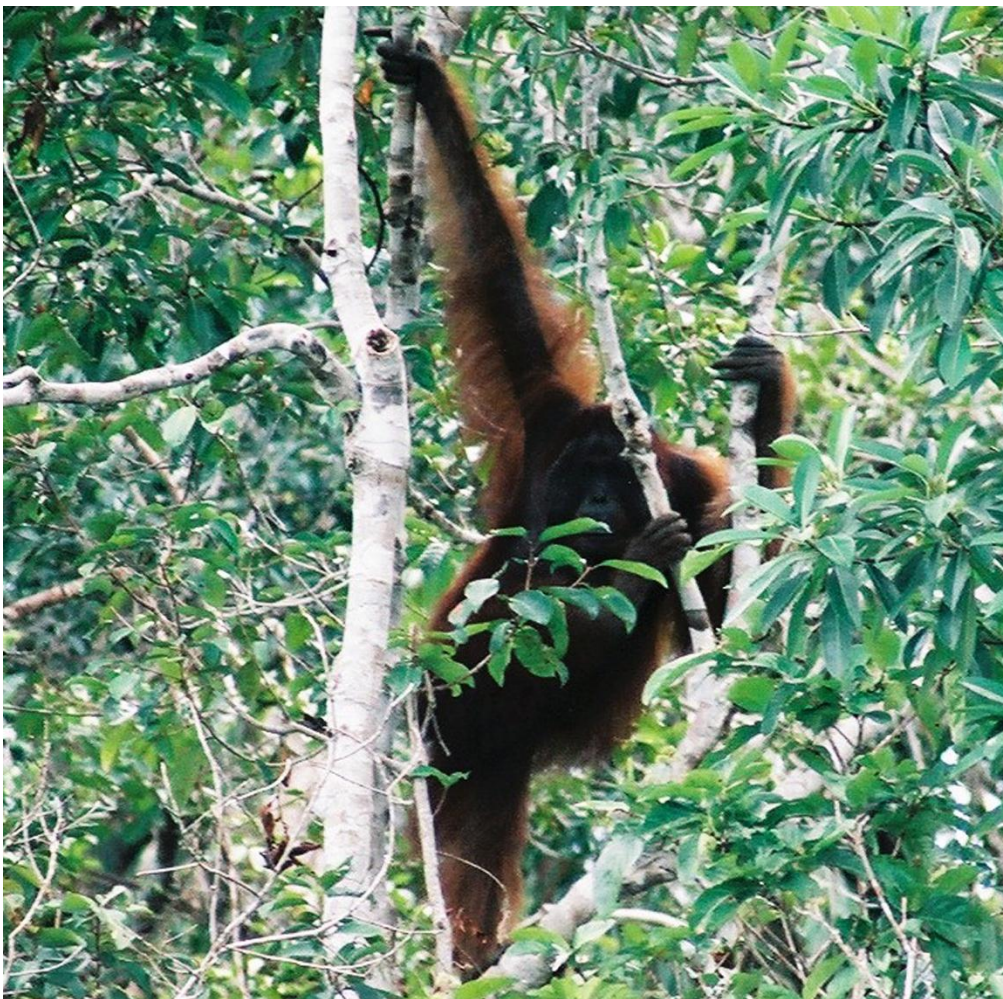
オスは大きな叫び声で鳴くときがあるが、メスへの求愛の場合が多い。またオス同士がかち合い、縄張り争いの際は威嚇するため叫び、噛み付いたり、殺し合いもあるという。

フランチ(顎の出っ張り)は強いオスの「しるし」で、弱いオスは何歳になってもフランチが大きくなるそう。強いオス(フランチがあるオス)がいなくなると、フランチ

のないオス(アン・フランジ)が急激にフランジを発達させて、1年以内にフランジのあるオスに変わってしまう。このようにオスどうしの敵対関係があると言われる。

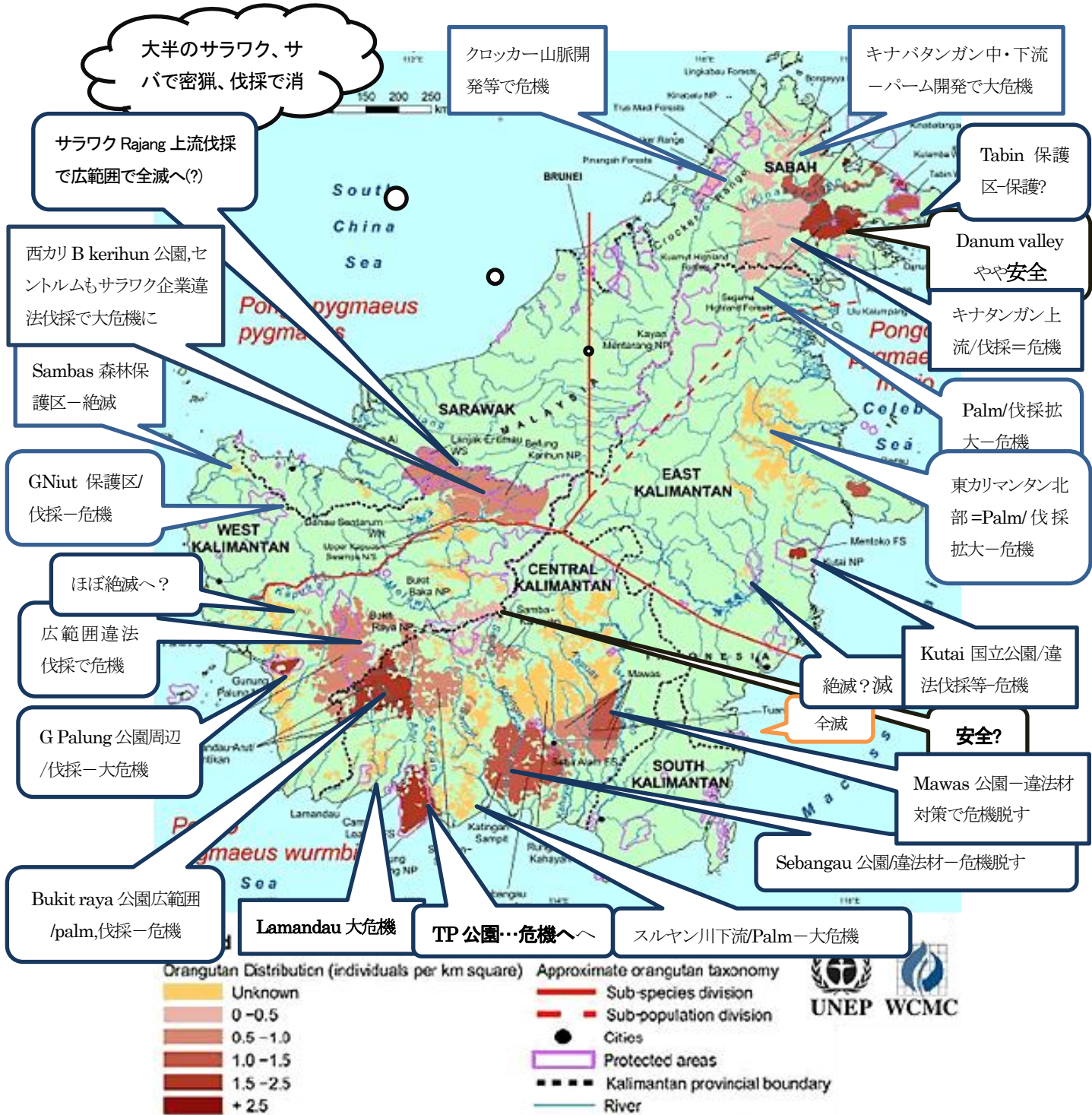
スマトラでは、20年以上アン・フランジだったオスがフランジ大きいオスとケンカをして勝ったところ、急に大きなフランジに変わってしまった、という報告もある。フランジは一度大きくなると小さくなることはない。またオス間の関係では、フランジをもつオス同士は非常に敵対的で、時には激しいケンカの時もある。一方、フランジが大きいオスは、アン・フランジに対しては非常に寛容で、同じ木と一緒に採食することもある。アン・フランジ同士の間にも敵対的な関係はほとんどみられないという。

(by 西岡良夫)



フランジが大きなタンジュン・プテイン国立公園 Sg Buluh Kecil での野生オランウータンのオス





大半のサラワク、サバで密猟、伐採で消

クロッカー山脈開発等で危機

キナバタンガン中・下流 - パーム開発で大危機

サラワク Rajang 上流伐採で広範囲で全滅へ(?)

Tabin 保護区-保護?

西カリ B kerihun 公園, セントルムもサラワク企業違法伐採で大危機に

Danum valley やや安全

Sambas 森林保護区-絶滅

キナタンガン上流/伐採=危機

GNiut 保護区/伐採-危機

Palm/伐採拡大-危機

東カリマンタン北部=Palm/伐採拡大-危機

ほぼ絶滅へ?

広範囲違法伐採で危機

絶滅? 滅 全滅 安全? Kutai 国立公園/違法伐採等-危機

G Palung 公園周辺/伐採-大危機

Bukit raya 公園広範囲/palm,伐採-危機

Lamandau 大危機 TP 公園...危機へ スルヤン川下流/Palm-大危機

Mawas 公園-違法材対策で危機脱す

Sebangau 公園/違法材-危機脱す

(\* 1) 久世農子さんHPより

(\* 2) Dobois, 1922; Hooijer, 1948、

(\* 3) D.W.マクドナルド編 伊谷純一郎監修『動物大百科 3 霊長類』、P136-139、平凡社

(\* 4) Orangutan Consarvancy HP より

